

下呂温泉分析表

成分

- 一、源泉名 下呂温泉
- 二、泉質 アルカリ性単純温泉
- 三、泉温 源泉 摄氏五十六・二度
- PH 八・九
- 使用位置 四十二度

四、温泉の成分
本鉱水一匁に含有する成分及びその分量

成分	ミリグラム	ミリバル	ミリバル%
ナトリウムイオン	一一・八・二	五・一四	九四・八三
カリウムイオン	二・二	〇・〇六	一一・一一
カルシウムイオン	四・四	〇・二二	四・〇六
(一)陽イオンの総計	一・二四・八	五・四二	一〇〇・〇〇
ふつ化物イオン	一〇・三	〇・五四	九・九九
塩化物イオン	一一・三・一	三・一九	五九・〇〇
硫酸イオン	一・二・四	〇・二六	四・八一
硝酸イオン	〇・四	〇・〇一	〇・一一
炭酸水素イオン	三・七・五	〇・六一	一一・二八
炭酸イオン	二・四・一	〇・八〇	一四・八〇
(二)陰イオンの総計	一九七・八	五・四一	一〇〇・〇〇
メタケイ酸	五七・三	〇・七五	(ミリモル)
メタホウ酸	七・〇	〇・一六	(ミリモル)
メタ亜ヒ酸	〇・一	〇・〇〇	(ミリモル)
(三)非溶解成分の総計	六四・四	〇・八九	(ミリモル)
溶解物質(ガス性のものを除く)	(一)(二)(三)	〇・三八七	g/Kg
遊離二酸化炭素(遊離炭酸)	四・〇	〇・〇九	(ミリモル)
遊離硫化水素	未検	未検	(ミリモル)
(四)溶解ガス成分の総計	—	—	(ミリモル)
成分総計	(一)(二)(三)(四)	〇・三八七	g/Kg
その他微量成分			
マグネシウムイオン	未検	未検	
アルミニウムイオン	〇・〇六		
マンガンイオン	〇・〇〇一		
鉄(II)イオン	〇・〇二		
硫化水素イオン	未検		

五、温泉の分析年月日
平成二十五年十一月二十五日

六、登録分析機関
一般財団法人 岐阜県公衆衛生検査センター
岐阜県第二号

禁忌症及び適忌症

- 一、一般的禁忌症(浴用)
 - (一) 病気の活動期(特に熱のあるとき)
 - (二) 活動性の結核、進行した慢性肺病又は高度の貧血など身体衰弱の著しい場合
 - (三) 少し動く息苦しくなるような重い心臓又は肺の病氣、むくみのあるような重い腎臓の病氣
 - (四) 消化管出血、目に見える出血があるとき
 - (五) 慢性の病気の急性増悪期
- 二、一般的適忌症(浴用)
 - (一) 筋肉若しくは関節の慢性的な痛み又はこわばり(関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫などの慢性期)
 - (二) 運動麻痺における筋肉のこわばり
 - (三) 冷え性、末梢循環障害
 - (四) 胃腸機能の低下(胃がもたれる、腸にガスがたまるなど)
 - (五) 軽度高血圧
 - (六) 耐糖能異常(糖尿原)
 - (七) 軽い高コレステロール血症
 - (八) 軽い喘息又は肺気腫
 - (九) 痔の痛み
 - (十) 病後回復期
 - (十一) 疲労回復
 - (十二) 健康増進
- 三、浴用上の注意
 - (一) 入浴前の注意
 - 食事の直前、直後及び飲酒後の入浴は避けること。酩酊状態での入浴は特に避けること。
 - 過度の疲労時には身体を休めること。
 - 運動後三十分程度の間は身体を休めること。
 - 高齢者、子供及び身体の不自由な人は、一人での入浴は避けることが望ましいこと。
 - (二) 入浴時
 - 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温度に慣らすとともに、身体を洗い流すこと。
 - 入浴時、特に起床直後の入浴時などは脱水症状等にさらさないよう、あらかじめコップ一杯程度の水分を補給しておくこと。
 - (三) 入浴方法
 - (一) 入浴温度
 - 高齢者、高血圧症若しくは心臓病の人又は船中や経験した人は、四十二度以上の高温浴は避けること。
 - (二) 入浴形態
 - 心臓機能の低下している人は、全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ましいこと。
 - (三) 入浴回数
 - 入浴開始後数日は、一日当たり一〜二回とし、慣れてきたら二〜三回まで増やしてもよいこと。
 - (四) 入浴時間
 - 入浴温度により異なるが、一日当たり、初めは三〜十分程度とし、慣れてきたら十五〜二十分程度まで延長してもよいこと。
 - (三) 入浴中の注意
 - 運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度にして静かに入浴すること。
 - 浴槽から出る時は、立ちくらみや起こさぬようにゆっくり出ること。
 - めまいが生じ、又は気分が不良となった時は、近くの人に助けを求めつつ、浴槽から頭を低い位置に保ってゆっくり出て、横になって回復を待つこと。
 - (四) 入浴後の注意
 - 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を拭き取り、着衣の上、保温及び三十分程度の安静と心がけること(ただし、肌の弱い人は、刺激の強い臭気例えは硫黄臭や硫黄臭や必要に応じて塩素消毒等が行われている場合には、温泉成分等を温水で洗い流す方がよいこと)。
 - 脱水症状等を避けるため、コップ一杯程度の水分を補給すること。
- 六、その他
 - 浴槽水の清浄を保つため、浴槽にタオルは入れないこと。